

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2021-52886 (P2021-52886A)

【公開日】令和 3 年 4 月 8 日 (2021.4.8)

【年通号数】公開・登録公報 2021-017

【出願番号】特願 2019-176844 (P2019-176844)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 5 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 24 日 (2021.5.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

操作部を備えたスタートレバーを備え、

前記スタートレバーは初期位置から鉛直下方に向かう力で操作可能であるよう構成され
ており、

前記スタートレバーは初期位置から鉛直上方に向かう力で操作可能であるよう構成され
ており、

前記スタートレバーが初期位置から鉛直下方に向かう力で操作された場合よりも、前記
スタートレバーが初期位置から鉛直上方に向かう力で操作された場合の方が、前記スター
トレバーの操作が最初に検出可能となる検出位置まで操作されるときの前記操作部の中心
の移動距離が長くなるよう構成されている

遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

上述した課題を解決するために、本発明は、

操作部を備えたスタートレバーを備え、

前記スタートレバーは初期位置から鉛直下方に向かう力で操作可能であるよう構成され
ており、

前記スタートレバーは初期位置から鉛直上方に向かう力で操作可能であるよう構成され
ており、

前記スタートレバーが初期位置から鉛直下方に向かう力で操作された場合よりも、前記
スタートレバーが初期位置から鉛直上方に向かう力で操作された場合の方が、前記スター
トレバーの操作が最初に検出可能となる検出位置まで操作されるときの前記操作部の中心
の移動距離が長くなるよう構成されている

ことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0892

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0892】

なお、単発動画演出においても、連続動画演出においても、テロップの表示態様の違いによって表されるボーナス等の期待度は、「低」（図105（b-1）,（d-1）参照）または「高」（図105（b-2）,（d-2）参照）の2段階となっており、他の演出（会話演出も含む）によって示されるボーナス等の期待度の段階数よりも少なくなっている。例えば、前述した会話演出では、ボーナス等の期待度を少なくとも4段階で表すことが可能である。しかしながら、例えば、ボーナス等に当せんしていないときは、動画演出が実行される確率を低くする一方、他の演出が実行される確率を高くし、また、ボーナス等に当せんしているときは、動画演出が実行される確率を高くする一方、他の演出が実行される確率を低くすることで、動画演出が実行されること自体が、ボーナス等の期待度が高いことを意味しているようにすれば、たとえ動画演出におけるボーナス等の期待度の段階数が少なくても、遊技者の興趣を損なうことはない。